

(様式第 10)

分大医総病第 3 5 号
平成 2 6 年 1 0 月 1 日

九州厚生局長 殿

大分大学医学部附属病院長事務代理
副病院長 津村 弘 (印)

特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 2 5 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒870-1192 大分県大分市大字旦野原 7 0 0 番地
氏 名	国立大学法人大分大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大分大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1 丁目 1 番地	電話(0 9 7) 5 4 9 - 4 4 1 1
--------------------------------------	---------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1. 呼吸器内科 2. 消化器内科 3. 循環器内科 4. 腎臓内科 5. 神経内科 6. 血液内科 7. 腫瘍内科 8. 内分泌・糖尿病内科 9. アレルギー科 10. リウマチ科・内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1. 呼吸器外科 2. 消化器外科 3. 乳腺外科 4. 心臓血管外科 5. 小児外科 6. 形成外科 7. 腎臓外科 8. 頭頸部外科 9. 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1. 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制 歯科医師を有する	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1. 児童精神科 2. 神経小児科 3. 病理診断科 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
30床	0床	0床	0床	588床	618床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	227人	179人	392.2人	看 護 補 助 者	36人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	7人	18人	23.8人	理 学 療 法 士	9人	臨床検査技師	48人
薬 剤 師	35人	0人	35人	作 業 療 法 士	7人	衛生検査技師	0人
保 健 師	1人	0人	1人	視 能 訓 練 士	4人	そ の 他	0人
助 産 師	23人	0人	23人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	603人	35人	627人	臨 床 工 学 技 士	15人	医療社会事業従事者	0人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	12人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	158人
管理栄養士	7人	0人	7人	診療放射線技師	34人	その他の職員	55人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	5人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	28人	耳鼻咽喉科専門医	10人
精 神 科 専 門 医	8人	放射線科専門医	17人
小 児 科 専 門 医	13人	脳神経外科専門医	12人
皮 膚 科 専 門 医	8人	整形外科専門医	13人
泌尿器科専門医	11人	麻 酔 科 専 門 医	14人
産婦人科専門医	14人	救 急 科 専 門 医	4人
		合 計	168人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	492.8人	9.0人	501.8人
1日当たり平均外来患者数	972.7人	52.8人	1025.5人
1日当たり平均調剤数			1952.1剤
必要医師数			110.235人
必要歯科医師数			5人
必要薬剤師数			25人
必要(准)看護師数			287人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要
集中治療室	m ² 201.58	鉄筋コンクリート	病床数 10 床
			心電計 (有)・無
			心細動除去装置 (有)・無
			ペースメーカー (有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 64 m ² [移動式の場合] 台数 10 台		病床数 3 床
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 45 m ² [共用室の場合] 共用する室名		
化学検査室	241 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置 ほか
細菌検査室	161 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動血液培養装置 ほか
病理検査室	109 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) テッシュプロセッサ、ミクロトーム ほか
病理解剖室	283 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、臓器切り出し台 ほか
研究室	4464 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、机、顕微鏡 ほか
講義室	2252 m ²	鉄筋コンクリート	室数 36 室 収容定員 1,807 人
図書室	2305 m ²	鉄筋コンクリート	室数 18 室 蔵書数 140,000 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	64.3%	逆紹介率	48.8%
算出根拠	A: 紹介患者の数		8,904 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		7,345 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		775 人
	D: 初診の患者の数		15,055 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	0人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	1人
自家液体窒素処理骨移植	1人
食道アカラシア等に対する経口内視鏡的筋層切開術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

[illegible]

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対してセンチネルリンパ節生検を行うことにより、リンパ節転移の効率的な検索をおこなう。			
医療技術名	陳旧性顔面神経麻痺に対する遊離薄筋弁移植術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 自然回復の見込みのない、陳旧化した顔面神経麻痺患者に対して、遊離筋移植術を行い、顔面の表情再建を行っている。また、移植した筋肉を、健側顔面神経と患側咬筋神経に縫合し、強い動きが得られるよう工夫している。			
医療技術名	腹腔鏡下系統的肝切除術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 従来の顔服手術創と比較し1/5から1/6程度の切開創で、侵襲が軽減される。術後の疼痛も少なく、早期の自立歩行および食事摂取が可能となることから、術後在院日数の短縮にもつながる。			
医療技術名	膵悪性腫瘍に対する腹腔鏡下膵体尾部切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 膵癌を含む悪性腫瘍に対しリンパ節郭清を伴う腹腔鏡下膵体尾部切除術の安全性と有効性を検討する。			
医療技術名	中等度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 コントロール不良な肥満健康障害を有する中等度肥満症(BMI<35kg/m²)患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の安全性と有効性を検討する。			
医療技術名	超肥満患者や内因性インスリン分泌不良糖尿病肥満患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術+十二指腸空腸バイパス術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 超肥満患者や内因性インスリン分泌不良糖尿病肥満患者を対象として、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術+十二指腸空腸バイパス術(胆膵バイパス術)の安全性と有効性を検討する。			
医療技術名	超音波気管支鏡ガイド下経気管支リンパ節生検(EBUS-TBNA)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 先端に超音波発信器が付属された超音波気管支鏡を用いて、気管・気管支の深層にあるリンパ節に対して、エコー画像ガイド下に穿刺吸引生検を行い、組織診断する。			
医療技術名	超音波プローブおよび気管支鏡ナビゲーションシステム補助下の経気管支肺生検	取扱患者数	64人
当該医療技術の概要 気管支鏡検査の前日までにナビゲーションシステムで病巣との関与が予想される気管支を同定し、気管支鏡検査時間の短縮を図る。実際の検査においては、ナビゲーションシステムの結果を参考としつつ、超音波プローブを用いて標的とした陰影に確実に的中させ、その後ガイドシース内の器具を入れ替えて生検を行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	55 人	・膿疱性乾癬	8 人
・多発性硬化症	44 人	・広範脊柱管狭窄症	9 人
・重症筋無力症	46 人	・原発性胆汁性肝硬変	33 人
・全身性エリテマトーデス	186 人	・重症急性膵炎	4 人
・スモン	2 人	・特発性大腿骨頭壊死症	58 人
・再生不良性貧血	18 人	・混合性結合組織病	27 人
・サルコイドーシス	189 人	・原発性免疫不全症候群	1 人
・筋萎縮性側索硬化症	17 人	・特発性間質性肺炎	44 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	115 人	・網膜色素変性症	16 人
・特発性血小板減少性紫斑病	32 人	・プリオン病	1 人
・結節性動脈周囲炎	17 人	・肺動脈性肺高血圧症	5 人
・潰瘍性大腸炎	72 人	・神経線維腫症	26 人
・大動脈炎症候群	14 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	5 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0 人
・天疱瘡	13 人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2 人
・脊髄小脳変性症	26 人	・ライソゾーム病	2 人
・クローン病	39 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	14 人	・脊髄性筋委縮症	2 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	66 人	・球脊髄性筋委縮症	2 人
・アミロイドーシス	7 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	7 人
・後縦靱帯骨化症	43 人	・肥大型心筋症	5 人
・ハンチントン病	2 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	30 人	・ミトコンドリア病	5 人
・ウェゲナー肉芽腫症	9 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	5 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	33 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	18 人	・黄色靱帯骨化症	6 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0 人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	60 人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・7対1入院基本料	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・15対1入院基本料	・ハイリスク妊娠管理加算
・重度認知症加算	・ハイリスク分娩管理加算
・臨床研修病院入院診療加算の基幹型(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	・退院調整加算
・臨床研修病院入院診療加算の基幹型(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・臨床研修病院入院診療加算の単独型又は管理型(歯科診療に係るものに限る。)	・データ提出加算2(200床以上の病院)
・救急医療管理加算	・救命救急入院料3
・超急性期脳卒中加算	・救命救急入院料の「注3」に掲げる加算(充実段階評価A)
・妊産婦緊急搬送入院加算	・救命救急入院料の「注5」に掲げる加算(高度救命救急センターの指定)
・妊産婦緊急搬送入院加算	・特定集中治療室管理料2
・50対1急性期看護補助体制加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・乳幼児加算・幼児加算	・小児入院医療管理料2
・難病患者等入院診療加算	・短期滞在手術基本料3
・超重症児(者)入院診療加算・準超重症児(者)入院診療加算	
・看護補助加算1(30対1)(精神病棟のみ)	
・療養環境加算	
・重症者等療養環境特別加算	
・小児療養環境特別加算	
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・感染防止対策地域連携加算	
・患者サポート体制充実加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)その1

施設基準の種類	施設基準の種類
・悪性腫瘍特異物質治療管理料	・医療機器安全管理料1(歯科診療以外)
・小児特定疾患カウンセリング料	・医療機器安全管理料2(歯科診療以外)
・小児科療養指導料	・造血器腫瘍遺伝子検査
・外来栄養食事指導料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・入院栄養食事指導料	・検体検査管理加算(I)
・集団栄養食事指導料	・検体検査管理加算(IV)
・植込型除細動器移行期加算	・遺伝カウンセリング加算
・高度難聴指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・喘息治療管理料	・植込型心電図検査
・小児悪性腫瘍患者指導管理料	・時間内歩行試験
・糖尿病合併症管理料	・胎児心エコー法
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料1	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料2	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん患者指導管理料3	・脳外科手術の術前検査に使用するもの(D236-2光トポグラフィの1)
・糖尿病透析予防指導管理料	・抑うつ症状の鑑別診断の補助に使用するもの(地域の精神科救急医療体制を確保するために必要な協力等を行っている精神保健指定医による場合)(D236-2光トポグラフィの2のイ)
・乳幼児育児栄養指導料	中枢神経磁気刺激による誘発筋電図(D239筋電図検査の3) 【所定点数の100分の80に相当する点数により算定する】
・生活習慣病管理料	・神経学的検査
・ニコチン依存症管理料	・補聴器適合検査
・地域連携診療計画管理料(脳卒中に限る)	・ロービジョン検査判断料
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・コンタクトレンズ検査料1
・ハイリスク妊産婦共同管理料(II)	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん治療連携計画策定料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携管理料	・センチネルリンパ節生検(1併用法, 2単独法)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算2(第4部画像診断の通則5)(歯科診療以外)
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)その2

施設基準の種類	施設基準の種類
・CT撮影及びMRI撮影	・植込型骨導補聴器移植術, 植込型骨導補聴器交換術
・冠動脈CT撮影加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・外傷全身CT加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び加算2
・大腸CT撮影加算	・経皮的冠動脈形成術
心臓MRI撮影加算	・経皮的冠動脈ステント留置術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術
・外来化学療法加算1	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・無菌製剤処理科	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算	・植込型除細動器移植術, 植込型除細動器交換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算	・補助人工心臓
・がん患者リハビリテーション料	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・精神科作業療法	・経皮的大動脈遮断術
・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	・ダメージコントロール手術
・医療保護入院等診療料	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・透析液水質確保加算1	・体外衝撃波胆石破碎術(一連につき)
・一酸化窒素吸入療法	・腹腔鏡下肝切除術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・体外衝撃波膀胱石破碎術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。), 脳刺激装置交換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脊髄刺激装置植込術, 脊髄刺激装置交換術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術(一連につき)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・同種死体腎移植術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・生体腎移植術
・網膜再建術	・膀胱水压拡張術
・人工内耳植込術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)その3

施設基準の種類	施設基準の種類
・人工尿道括約筋植込・置換術	
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	
・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	
・輸血管理料Ⅰ	
・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6(歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む。)に掲げる手術に係る施設基準	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・内視鏡手術用支援機器加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・麻酔管理料(Ⅰ)	
・麻酔管理料(Ⅱ)	
・放射線治療専任加算(歯科診療以外)	
・外来放射線治療加算(歯科診療以外)	
・高エネルギー放射線治療	
・定位放射線治療	
・病理診断管理加算2	
・歯科治療総合医療管理料	
・歯周組織再生誘導手術	
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。) 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・クラウン・ブリッジ維持管理料	
・歯科技工加算	
・歯科矯正診断料	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・抑うつ症状の鑑別診断の補助に使用するもの(地域の精神科救急医療体制を確保するために必要な協力等を行っている精神保健指定医による場合)(D236-2光トポグラフィの2のイ)	・
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	平均して月1回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 15 例 / 剖検率 6.6%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
肥満症、メタボリックシンドロームにおける食事のリズム調節因子の解析	正木 孝幸	内科	910	補委 独立行政法人 日本学術振興会
過栄養性脂肪肝の病態生理学的メカニズムの解明と活性酸素によるDNA障害の関与	加隈 哲也	内科	780	補委 独立行政法人 日本学術振興会
制御性T細胞がEGFR阻害剤の耐性獲得機序に関連しているか	渡邊 浩一郎	内科	650	補委 独立行政法人 日本学術振興会
女性に特有な微小血管性狭心症および冷え症の病態解明と漢方的アプローチ	中川 幹子	内科	910	補委 独立行政法人 日本学術振興会
新たな緑膿菌感染症の予防戦略—線毛の断片化ペプチドによるワクチンの開発	門田 淳一	内科	1,950	補委 独立行政法人 日本学術振興会
特発性肺線維症における炎症細胞アポトーシス誘導因子の臨床応用	濡木 真一	内科	1,300	補委 独立行政法人 日本学術振興会
同種造血細胞移植後ヒトヘルペスウイルス6脳炎の病態解析と発症予測	緒方 正男	内科	1,430	補委 独立行政法人 日本学術振興会
多剤耐性緑膿菌感染症を制御する新しいシステムの構築—RNAiによる耐性遺伝子阻害	平松 和史	内科	1,430	補委 独立行政法人 日本学術振興会
新生児皮下脂肪壊死症は褐色脂肪組織のアポトーシスにより生じる	藤原 作平	皮膚科	650	補委 独立行政法人 日本学術振興会
デルマトポンチンにより活性化されたフィブロネクチンは抗腫瘍活性を持つのか	岡本 修	皮膚科	650	補委 独立行政法人 日本学術振興会
PPAR α の活性化は、皮膚バリア機能異常とアレルギー性炎症の悪循環を断つ	波多野 豊	皮膚科	1,170	補委 独立行政法人 日本学術振興会
うつ病・パニック障害におけるFKBP5とCRHR1の総合的な役割研究	穂吉 條太郎	精神科	1,560	補委 独立行政法人 日本学術振興会
がん特異的ラジカスカベンジ制御に基づく新しい癌休眠療法確立	猪股 雅史	外科	780	補委 独立行政法人 日本学術振興会
急性肝炎時におけるビタミンE誘導体ETS—GS投与の改善効果の検討	新宮 千尋	麻酔科	520	補委 独立行政法人 日本学術振興会
新規抗酸化物質ETS—GSを用いた敗血症時の副腎不全に対する新しいアプローチ	松本 重清	麻酔科	1,690	補委 独立行政法人 日本学術振興会
ヒト外尿道括約筋に高発現するサイトカイン・シグナル伝達関連遺伝子の同定と機能解析	三股 浩光	腎臓外科・泌尿器科	1,040	補委 独立行政法人 日本学術振興会
網羅的遺伝子解析法を用いた子宮内膜症の病態の解明と新しい薬物療法の開発	檜原 久司	産科婦人科	910	補委 独立行政法人 日本学術振興会
上気道粘膜免疫誘導機序の解明	鈴木 正志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430	補委 独立行政法人 日本学術振興会
鼻粘膜樹状細胞を標的とした経鼻ワクチンの開発	児玉 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430	補委 独立行政法人 日本学術振興会
抗酸化物質の弱点を克服した新たな心筋虚血再灌流障害阻止法の構築	高橋 尚彦	内科	1,040	補委 独立行政法人 日本学術振興会
抗酸化能に着目した肺線維症に対する新規治療法の開発	野口 隆之	麻酔科	1,040	補委 独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病モデル動物の心房細動発生におけるIfチャネルリモデリングの役割	篠原 徹二	内科	650	補委 独立行政法人 日本学術振興会
肝虚血再灌流障害時におけるビタミンE誘導体ETS—GS投与の改善効果の検討	山本 俊介	麻酔科	780	補委 独立行政法人 日本学術振興会
新規 α リポ酸誘導体を用いた敗血症に対する抗酸化療法の開発	古賀 寛教	麻酔科	780	補委 独立行政法人 日本学術振興会

小計 24

メタボリックシンドローム発症における脾臓の役割	後藤 孔郎	内科	1,690	補委	独立行政法人 日本学術振興会
医薬品に対する応答性の民族差を生じさせる要因は何か? : 東アジア国際共同研究	小手川 勤	臨床薬理センター	1,820	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新興真菌症の薬剤耐性機序-真菌にも耐性菌選択濃度域があるのか-	時松 一成	内科	910	補委	独立行政法人 日本学術振興会
十二指腸閉鎖発症機序の解明: ダウン症候群におけるゾニックヘッジホッグ経路の関与	秋吉 健介	小児科	1,820	補委	独立行政法人 日本学術振興会
川崎病冠動脈病変の機序と治療法の開発: 単離血球によるMMPとTIMPの動態の解明	是松 聖悟	小児科	1,430	補委	独立行政法人 日本学術振興会
双極スペクトラムと関連する気質の脳機能画像研究	寺尾 岳	精神科	1,560	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腫瘍におけるFDG取り込みレベルとp53ステータスとの相関性に関する生物学的検討	森 宣	放射線科	2,080	補委	独立行政法人 日本学術振興会
消化管がんの増殖・進展におけるリンパ管新生因子の役割	白石 憲男	総合内科・総合診療科	1,560	補委	独立行政法人 日本学術振興会
食道癌における新規抗癌剤効果規定遺伝子の同定と抗癌剤効果予測モデルの確立	野口 剛	総合内科・総合診療科	910	補委	独立行政法人 日本学術振興会
レオウイルスナノプローブを用いた微小転移迅速診断法の開発	衛藤 剛	外科	1,430	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ニューロモデュレーション新機軸を駆使した虚血脳の再構築・再教育・再学習系統的戦略	藤木 稔	脳神経外科	1,040	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ビタミンE誘導体ETS-GSを用いた脊髄損傷に対する新規治療法の開発	内納 智子	麻酔科	1,300	補委	独立行政法人 日本学術振興会
概日リズムの維持が亜急性疼痛に及ぼす影響の検討	奥田 健太郎	麻酔科	1,300	補委	独立行政法人 日本学術振興会
体外フォトフェレーシスによる抗原特異的免疫寛容機序の解析	清水 史明	形成外科	910	補委	独立行政法人 日本学術振興会
持続血液ろ過透析における新規膜開発の挑戦	安田 則久	麻酔科	1,690	補委	独立行政法人 日本学術振興会
重症敗血症における酸化ストレス制御を目的とした新たな血液浄化カラムの開発	日高 正剛	麻酔科	1,690	補委	独立行政法人 日本学術振興会
電子スピン共鳴法による胎児酸化ストレスの新しい評価法の開発	西田 欣広	産科婦人科	1,690	補委	独立行政法人 日本学術振興会
がん化学療法による悪心・嘔吐における神経ペプチドのバイオマーカーとしての有用性	佐藤 雄己	薬剤部	780	補委	独立行政法人 日本学術振興会
mTORとオートファジーを制御することによる新しい結節性硬化症治療の確立	宮原 弘明	小児科	650	補委	独立行政法人 日本学術振興会
分泌性因子がもたらすミトコンドリア機能変化と放射線抵抗性獲得機構の解明	菓子野 元郎	先端分子イメージングセンター	1,820	補委	独立行政法人 日本学術振興会
抗癌剤誘発脱毛に対する抗酸化物質DHLe-HisZnNaの有用性の検討	中嶋 健太郎	外科	2,080	補委	独立行政法人 日本学術振興会
放射線性腸炎・皮膚炎に対する新規抗酸化剤の有効性	杉田 諭	外科	910	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ラット脊椎固定モデルにおける新しいビタミンE誘導体の骨癒合能の検討	宮崎 正志	整形外科	780	補委	独立行政法人 日本学術振興会
光治療の新規メカニズムと治療法の開発	小山 淑正	麻酔科	1,040	補委	独立行政法人 日本学術振興会
頭頸部癌におけるシスプラチン耐性機序と新規治療標的分子の解明	能美 希	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,080	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規NF- κ B制御不全モデル「Tax1bp1欠損マウス」を用いた眼自然免疫系解析	中野 聡子	眼科	1,690	補委	独立行政法人 日本学術振興会
PKC- δ を標的とした増殖硝子体網膜症の治療	横山 勝彦	眼科	910	補委	独立行政法人 日本学術振興会
冷却装置付3D-MRIコイルを備えた電磁ホーン型ESR装置による腫瘍イメージング	上田 徹	脳神経外科	2,990	補委	独立行政法人 日本学術振興会

コチニール色素によるアナフィラキシー その検査法の確立と症例解析	竹尾(岡田) 直子	皮膚科	2,470	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
アルツハイマー病の発症機構における無 症候性白質病変の意義の解明	木村 成志	内科	1,300	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
脳灌流画像を用いた脳梗塞急性期治療 の効果判定システムの構築	平野 照之	内科	1,820	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
水道水リチウムと自殺予防:日本全国を対 象とした調査	石井 啓義	精神科	2,080	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
高分解MRIによる腎周囲リンパ網の解析	松本 俊郎	放射線科	2,210	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
新規抗酸化剤ETS-GSによる潰瘍性大腸 炎治療法の開発	當寺ヶ盛 学	外科	2,730	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
上皮成長因子受容体変異陽性肺癌を対 象としたTKI耐性機序の解明	杉尾 賢二	外科	1,950	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
in vivoモデルのmiRNA発現解析に基づく 前立腺癌浸潤機序の解明	佐藤 文憲	腎臓外科・泌尿器科	2,340	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ギャップ結合からみた過活動膀胱の原因 解明とテルミサルタンの新規治療薬への 応用	森 健一	腎臓外科・泌尿器科	2,080	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
子宮内膜症における癒痕形成の病態解明 と治療法の開発	奈須 家栄	産科婦人科	2,990	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
精子と子宮内膜の相互作用の解明と新た な着床障害の治療応用に関する研究	河野 康志	産科婦人科	3,250	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
インフルエンザ菌性慢性中耳炎症病態に 対する抗サイトカイン療法および分子標的 治療	平野 隆	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	1,560	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
Fibronectin ED-A抑制による増殖硝子体 網膜症の制御	木許 賢一	眼科	1,690	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
EMPの制御から見た腎代替療法における 新規膜素材の開発	後藤 孝治	麻酔科	2,340	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
脳血流モニタリングを用いた高齢者脳血 管障害患者に対するせん妄マネジメントの 開発	井上 亮	脳神経外科	3,120	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ヘリコバクター・ピロリCagA抗体の迅速検 出キットの開発	塩田 星児	総合内科・総合診療 科	2,340	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
サルコイドーシスにおける肉芽腫形成修飾 因子の臨床的応用	竹中 隆一	高度救命救急セン ター	2,080	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
初期栄養計画の新たな指標としての新生 児オートファジー研究	関口 和人	小児科	2,600	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
角層pH調節機構の異常がアトピー性皮膚 炎を誘発する	酒井 貴史	皮膚科	1,040	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
エピブラキンはタイト・ジャンクションと連結 するか	石川 一志	皮膚科	2,990	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
うつ病におけるパルス近赤外線光照射研 究	田中 悦弘	脳神経外科	2,080	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
光線照射による新規炎症性腸疾患治療法 の開発	平塚 孝宏	外科	2,080	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
大腸癌におけるVSNL-1発現亢進の機能的 意義の解明	赤木 智徳	高度救命救急セン ター	1,820	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
長期低酸素環境が前立腺癌細胞の悪性 化に与える影響についての研究	山崎 六志	腎臓外科・泌尿器科	2,210	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
子宮内膜症の病態へのがん抑制遺伝子 C/EBP α の関与	川野 由紀枝	遺伝子診療室	2,080	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
SOCS遺伝子改変アレルギーマウスモデル における中耳局所粘膜免疫応答の解明	川野 利明	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	1,950	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
PRP-F療法における創傷治癒促進効果の 検討	佐藤 精一	形成外科	2,600	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔扁平上皮癌の頸部リンパ節転移に関 わる7p、8q、17q上の責任遺伝子の同定	吉岡 俊一	歯科口腔外科	1,560	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

低酸素PETを用いた脳腫瘍の遺伝子解析と腫瘍幹細胞をターゲットとした治療法の開発	粂井 泰朋	脳神経外科	1,430	補委	独立行政法人 日本学術振興会
生活習慣病におけるアルドステロンによる治療抵抗性高血圧の発症機構の解明	柴田 洋孝	内科	1,950	補委	独立行政法人 日本学術振興会
中和抗体定説への挑戦:画期的A β オリゴマー標的ワクチン開発	松原 悦朗	内科	2,210	補委	独立行政法人 日本学術振興会
進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	北野 正剛	外科	26,000	補委	厚生労働省
治験の実施に関する研究[ブリアントブルーG250]	久保田 敏昭	眼科	1,600	補委	厚生労働省

小計 5
計 85

- (注)
- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 - 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入
 - 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	山本 哲彰	歯科口腔外科	Occurrence of silk stitch abscess after surgery in patients with oral squamous cell carcinoma.	Medicina Oral Patologia Oral y Cirugia Bucal 18(4) e701-e705 2013
2	鈴木 陽介	薬剤部	Significant decrease in plasma midregional proadrenomedullin level in patients with end-stage renal disease after living kidney transplantation.	Peptides 43 102-104 2013
3	鈴木 陽介	薬剤部	Association of sustained high plasma trough concentration of voriconazole with the incidence of hepatotoxicity.	Clinica Chimica Acta 424(3) 119-122 2013
4	鈴木 陽介	薬剤部	Significant increase in plasma 4 β - hydroxycholesterol concentration in patients after kidney transplantation.	Journal of Lipid Research 54(9) 2568-2572 2013
5	鈴木 陽介	薬剤部	Relationship between plasma mid-regional pro-adrenomedullin level and resistance to antihypertensive therapy in stable kidney transplant recipients.	Peptides 48 45-48 2013
6	島田 浩光	皮膚科	Epiplakin modifies the motility of the HeLa cells and accumulates at the outer surfaces of 3-D cell clusters.	Journal of Dermatology 40(4) 249-258 2013
7	石井 啓義	精神科	Risk factors for suicide in Japan: A model of predicting suicide in 2008 by risk factors of 2007.	Journal of Affective Disorders 147(1-3) 352-354 2013
8	河野 愛生	精神科	Salivary alpha-amylase and cortisol responsiveness following electrical stimulation stress in obsessive-compulsive disorder patients.	Psychiatry Research 209(1) 85-90 2013
9	津留 壽船	精神科	The thyrotropin-releasing hormone test may predict recurrence of clinical depression within ten years after discharge.	Neuroendocrinology Letters 34(5) 409-417 2013
10	原田 麻友	精神科	Hyperthymic temperament and brightness judgment in healthy subjects: Involvement of left inferior orbitofrontal cortex.	Journal of Affective Disorders 151(1) 143-148 2013
11	原田 麻友	精神科	Hyperthymic temperament and brightness preference in healthy subjects: Further evidence for involvement of left inferior orbitofrontal cortex in hyperthymic temperament.	Journal of Affective Disorders 151(2) 763-768 2013
12	石井 啓義	精神科	Repeated seizures in an elderly patient with alcohol dependence and mild cognitive impairment.	BMJ Case Reports 201575 2013
13	児玉 健介	精神科	Hyperthymic temperament and rapid reaction time in brightness preference.	Journal of Affective Disorders 151(3) 914-919 2013
14	田中 悦弘	精神科	Salivary alpha-amylase and cortisol responsiveness following electrically stimulated physical stress in bipolar disorder patients.	Neuropsychiatric Disease and Treatment 9 1899-1904 2013
15	宮原 弘明	小児科	Suppressed expression of autophagosomal protein LC3 in cortical tubers of tuberous sclerosis complex.	Brain Pathology 23(3) 254-262 2013
16	関口 和人	小児科	A transient myelodysplastic/myeloproliferative neoplasm in a patient with cardio-facio-cutaneous syndrome and a germline BRAF mutation.	American Journal of Medical Genetics, Part A 161(10) 2600-2603 2013

小計 16

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
17	白尾 國昭	腫瘍・血液内科	Randomized phase III study of 5-fluorouracil continuous infusion vs. Sequential methotrexate and 5-fluorouracil therapy in far advanced gastric cancer with peritoneal metastasis (ICOG0106).	Japanese Journal of Clinical Oncology 43(10) 972-980 2013
18	渡邊 浩一郎	腫瘍内科	CD34-negative solitary fibrous tumour resistant to imatinib.	BMJ Case Reports 200126 2013
19	緒方 正男	輸血部	Human herpesvirus-6(HHV-6) reactivation and HHV-6 encephalitis after allogeneic hematopoietic cell transplantation: A multicenter, prospective study.	Clinical Infectious Diseases 57(5) 671-681 2013
20	中野 聡子	眼科	Commensal Microbiota Contributes to Chronic Endocarditis in TAX1BP1 Deficient Mice.	PLoS ONE 8(9) e73205 2013
21	岡田 文人	放射線科	High-resolution CT findings in Streptococcus milleri pulmonary infection.	Clinical Radiology 68(6) e331-e337 2013
22	清末 一路	放射線部	Angioarchitecture of Transverse-Sigmoid Sinus Dural Arteriovenous Fistulas: Evaluation of Shunted Pouches by Multiplanar Reformatted Images of Rotational Angiography.	American Journal of Neuroradiology 34(8) 1612-1620 2013
23	山崎 六志	腎臓外科・泌尿器科	Chronic hypoxia induces androgen-independent and invasive behavior in LNCaP human prostate cancer cells.	Urologic Oncology: Seminars and Original Investigations 31(7) 1124-1131 2013
24	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	Effects of hydrophilic statins on renal tubular lipid accumulation in diet-induced obese mice.	Obesity Research and Clinical Practice 7(5) e342-e352 2013
25	前島 圭佑	膠原病内科	Behçet's disease complicated by multiple aseptic abscesses of the liver and spleen.	World Journal of Gastroenterology 19(20) 3165-3168 2013
26	鳥越 雅隆	膠原病内科	Congenital Intrahepatic Portosystemic Venous Shunt Presenting with Paraparesis as the Initial Symptom.	Internal Medicine 52(21) 2349-2442 2013
27	濡木 真一	呼吸器内科	Hard Metal Lung Disease Successfully Treated with Inhaled Corticosteroids.	Internal Medicine 52(17) 1957-1961 2013
28	串間 尚子	呼吸器内科	Lung adenocarcinoma presenting with diffuse multiloculated cystic lesions.	Internal Medicine 52(20) 2375 2013
29	串間 尚子	呼吸器内科	Sarcoidosis in donor-derived tissues after haematopoietic stem cell transplantation.	European Respiratory Journal 41(6) 1452-1463 2013
30	門田 淳一	呼吸器内科	Emergence of a new strain of the avian influenza A (H7N9) virus.	Respiratory Investigation 51(2) 49 2013
31	鳥越 久美栄	循環器内科	20-Hour preprocedural hydration is not superior to 5-hour preprocedural hydration in the prevention of contrast-induced increases in serum creatinine and cystatin C.	International Journal of Cardiology 167(5) 2200-2203 2013
32	岡 宏亮	呼吸器内科	An atypical case of lymphoproliferative pulmonary involvement in a patient with Sjögren's syndrome: A case report.	BMC Research Notes 6(1) 367 2013
33	串間 尚子	呼吸器内科	Pulmonary Necrotizing Granulomas in a patient with familial mediterranean fever.	Modern Rheumatology 1-4 2013
34	濡木 真一	呼吸器内科	Elevated concentrations of CCR7 ligands in patients with eosinophilic pneumonia.	Allergy: European Journal of Allergy and Clinical Immunology 68(1) 1387-1395 2013
35	岡 宏亮	呼吸器内科	Inhibitory effects of pitavastatin on fibrogenic mediator production by human lung fibroblasts.	Life Sciences 93(25-26) 968-974 2013
36	村上 和成	消化器内科	Multi-center randomized controlled study to establish the standard third-line regimen for Helicobacter pylori eradication in Japan.	Journal of Gastroenterology 48(10) 1128-1135 2013
37	兒玉 雅明	消化器内科	Histological characteristics of gastric mucosa prior to Helicobacter pylori eradication may predict gastric cancer.	Scandinavian Journal of Gastroenterology 48(11) 1249-1256 2013

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
38	平塚 孝宏	消化器外科	DHL-TauZnNa, a newly synthesized α -lipoic acid derivative, induces autophagy in human colorectal cancer cells.	Oncology Reports 29(6) 2140-2146 2013
39	上田 貴威	総合内科・総合診療科	Biological predictors of survival in stage II colorectal cancer.	Molecular and Clinical Oncology 1(4) 643-648 2013
40	山本 恭子	総合内科・総合診療科	A diagnosis of depression should be considered in patients with multiple physical symptoms in primary care clinics.	Tohoku Journal of Experimental Medicine 229(4) 279-285 2013
41	竹尾 直子	皮膚科	Case of Mycoplasma pneumoniae infection with maculopapular-type eruptions due to acetaminophen.	Journal of Dermatology 40(4) 304-306 2013
42	塩田 星児	総合内科・総合診療科	The significance of virulence factors in Helicobacter pylori.	Journal of Digestive Diseases 14(7) 341-349 2013
43	塩田 星児	総合内科・総合診療科	Seroprevalence of Helicobacter pylori infection and gastric mucosal atrophy in Bhutan, a country with a high prevalence of gastric cancer.	Journal of Medical Microbiology 62(10) 1571-1578 2013
44	福井 暁	循環器内科	Role of leptin signaling in the pathogenesis of angiotensin II-mediated atrial fibrosis and fibrillation.	Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology 6(2) 402-409 2013
45	河野 嘉之	循環器内科	Severe obstructive sleep apnoea is independently associated with pulmonary artery dilatation.	Respirology 18(7) 1148-1151 2013
46	河野 嘉之	循環器内科	Fragmented QRS in lead V3 alone leading to a diagnosis of asymptomatic myocardial infarction.	International Journal of Cardiology 165(2) e24-e25 2013
47	川野 雄一郎	消化器外科	Effects of sleeve gastrectomy on lipid metabolism in an obese diabetic rat model.	Obesity Surgery 23(12) 1947-1956 2013
48	草野 徹	消化器外科	Poor prognosis of advanced gastric cancer with metastatic suprapancreatic lymph nodes.	Annals of Surgical Oncology 20(7) 2290-2295 2013
49	杉田 諭	消化器外科	Effect of the new synthetic vitamin E derivative ETS-GS on radiation enterocolitis symptoms in a rat model.	Oncology Letters 6(5) 1229-1233 2013
50	川野 雄一郎	消化器外科	Effects of the dihydrolipoyl histidinate zinc complex against carbon tetrachloride-induced hepatic fibrosis in rats.	Surgery Today 44(9) 1744-1750 2013
51	今井 浩光	臨床薬理センター	Pharmacokinetics of teriparatide after subcutaneous administration to volunteers with renal failure: A pilot study.	International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics 52(2) 166-174 2014
52	鈴木 陽介	薬剤部	Association of plasma concentration of 4 β -hydroxycholesterol with CYP3A5 polymorphism and plasma concentration of indoxyl sulfate in stable kidney transplant recipients.	Drug Metabolism and Disposition 42(1) 105-110 2014
53	秦野 浩司	精神科	Association between affective temperaments and regional gray matter volume in healthy subjects.	Journal of Affective Disorders 155(1) 169-173 2014
54	寺尾 岳	精神科	Antidepressant-induced mania or hypomania in DSM-5.	Psychopharmacology 231(1) 315 2014
55	山田 博	小児科	The ominous sequence in patients with tuberous sclerosis complex.	Brain and Development 36(3) 254-258 2014
56	宮原 弘明	小児科	Neuronal differentiation associated with Gli3 expression predicts favorable outcome for patients with medulloblastoma.	Neuropathology 34(1) 1-10 2014
57	徳山 耕平	放射線科	EBV-positive MTX-diffuse large B cell lymphoma in a rheumatoid arthritis patient.	Japanese Journal of Radiology 32(3) 183-187 2014
58	住野 泰弘	腎臓外科・泌尿器科	Therapeutic Effects of IGF-1 on Stress Urinary Incontinence in Rats with Simulated Childbirth Trauma.	Journal of Urology 191(2) 529-538 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
59	平井 健一	腎臓外科・泌尿器科	The Vav3 oncogene enhances the malignant potential of prostate cancer cells under chronic hypoxia.	Urologic Oncology: Seminars and Original Investigations 32(2) 101-109 2014
60	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	Brain-derived neurotrophic factor, corticotropin-releasing factor, and hypothalamic neuronal histamine interact to regulate feeding behavior.	Journal of Neurochemistry 125(4) 588-598 2013
61	島崎 貴信	内分泌・糖尿病内科	The Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor Des-Fluoro-Sitagliptin Regulates Brown Adipose Tissue Uncoupling Protein Levels in Mice with Diet-Induced Obesity.	PLoS ONE 8(5) e63626 2013
62	光富 公彦	内分泌・糖尿病内科	Effects of a nonnutritive sweetener on body adiposity and energy metabolism in mice with diet-induced obesity.	Metabolism: Clinical and Experimental 63(1) 69-78 2014
63	前島 圭佑	膠原病内科	Successful leukocytapheresis therapy in a patient with rheumatoid arthritis on maintenance hemodialysis.	Modern Rheumatology 1-4 2014
64	前島 圭佑	膠原病内科	Successful treatment of refractory anti-signal recognition particle myopathy using abatacept.	Rheumatology 53(2) 379-380 2014
65	濡木 真一	呼吸器内科	Interventricular septal thickening as an early manifestation of cardiac sarcoidosis.	International Heart Journal 55(2) 181-183 2014
66	塩田 星児	総合内科・総合診療部	Serum Helicobacter pylori CagA antibody titer as a useful marker for advanced inflammation in the stomach in Japan.	Journal of Gastroenterology and Hepatology 29(1) 67-73 2014
67	小山 淑正	手術部	Uncoupling of peripheral and master clock gene rhythms by reversed feeding leads to an exacerbated inflammatory response after polymicrobial sepsis in mice.	Shock 41(3) 214-221 2014
68	中川 幹子	検査部	Effect of ECG filter settings on J-waves.	Journal of Electrocardiology 47(1) 7-11 2014
69	中川 幹子	検査部	False tendons may be associated with the genesis of J-waves: Prospective study in young healthy male.	International Journal of Cardiology 172(2) 428-433 2014
70	手嶋 泰之	検査部	Production of reactive oxygen species in the diabetic heart: Roles of mitochondria and NADPH oxidase	Circulation Journal 78(2) 300-306 2014
71	河野 嘉之	循環器内科	Association between obstructive sleep apnea and premature supraventricular contractions.	Journal of Cardiology 63(1) 69-72 2014
72	中嶋 健太郎	消化器外科	Efficacy of the predicted operation time (POT) strategy for synchronous colorectal liver metastasis (SCLM): Feasibility study for staged resection in patients with a long POT.	Journal of Gastrointestinal Surgery 17(4) 688-695 2013
73	赤木 智徳	高度救命救急センター	Multicenter study of short-and long term outcomes of laparoscopic palliative resection for incurable, symptomatic stage IV colorectal cancer in Japan.	Journal of Gastrointestinal Surgery 17(4) 776-783 2013
74	川野 雄一郎	消化器外科	Increased oxidative stress may lead to impaired adaptive cytoprotection in the gastric mucosa of portal hypertensive rat.	Journal of Gastroenterology and Hepatology 28(4) 639-644 2013

小計 16
計 74

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲、組織・構成等、臨床研究審査委員会の責務、臨床研究審査委員会の運営、臨床研究審査委員会事務局の業務、記録の保管	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 マネジメントの対象、委員会、審査内容、手続き等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年20回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 研究者対象の講習を1回と臨床研究審査委員会委員対象の講習を1回行っている。研究者対象では、研究倫理の総論及び研究倫理に関連して問題となった事例についての周知と解説、利益相反などについて講習を行っている。審査委員会委員対象では、利益相反、国内外の倫理規制に関する最新情報の周知などを行っている。	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・ 整形外科専門医育成プログラム
- ・ 麻酔科専門医育成プログラム
- ・ 血液内科専門医育成プログラム ほか

2 研修の実績

研修医の人数	98.58 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
梅木 健二	呼吸器内科	助教	17年	
柴田 洋孝	内分泌・糖尿病内科、膠原病内科、腎臓内科	教授	26年	
花岡 拓哉	神経内科	助教	15年	プログラム別
木村 成志	神経内科	講師	17年	プログラム別
沖本 忠義	消化器内科	助教	22年	
高橋 尚彦	循環器内科	教授	27年	
幸野 和洋	血液内科	助教	20年	
大津 智	腫瘍内科	助教	17年	
宮崎 英士	総合内科・総合診療科	教授	31年	
猪股 雅史	消化器外科、小児外科	教授	26年	
杉尾 賢二	呼吸器外科、乳腺外科	教授	32年	
廣田 潤	心臓血管外科	講師	28年	
石井 啓義	精神科	講師	13年	
井原 健二	小児科	教授	21年	
藤原 作平	皮膚科	教授	39年	
住野 泰弘	腎臓外科・泌尿器科	講師	17年	
河野 康志	産科婦人科	准教授	25年	プログラム別
西田 欣広	産科婦人科	准教授	24年	プログラム別
久保田 敏昭	眼科	教授	32年	
鈴木 正志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	30年	
森 宣	放射線科	教授	38年	
重光 修	救急科	教授	19年	
藤木 稔	脳神経外科	教授	28年	
糸永 一郎	整形外科	講師	23年	
河野 憲司	歯科口腔外科	教授	23年	
北野 敬明	麻酔科	教授	26年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 （看護部）①レベルⅠ対象研修，②全員対象研修，③実践支援研修 ・研修の期間・実施回数 期 間：（看護部）年間 実施回数：（看護部）①15コース，②13コース，③4コース ・研修の参加人数 （看護部）①989人，②397人，③20人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 （看護部）①レベルⅡ対象研修，②レベルⅢ対象研修，③レベルⅡ・Ⅲ対象研修 ・研修の期間・実施回数 期 間：（看護部）年間 実施回数：（看護部）①3コース，②5コース，③3コース ・研修の参加人数 （看護部）①102人，②81人，③83人
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長事務代理 副病院長 津村 弘
管理担当者氏名	総務課長 三浦進治, 医事課長 中原俊秀, 薬剤部長 伊東弘樹, 放射線部長 森 宣, 医療安全管理部長 三股浩光, 研究協力課長 比江島孝司

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		各診療科, 各診療施設, 医事課	カルテ等病歴資料は、外来・入院別に一患者一ファイル方式で、コンピューターによる集中管理を行っている。また、エックス線写真は、放射線部において一患者一ファイルで管理を行っており、共に永久保存を原則としている。なお、診療録の病院外への持ち出しについては、診療録の取扱いに関する手引きの遵守すべき事項にて、病院外へ持ち出さないこととしている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究協力課 総務課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	第規一則 号第 況	医事課 (医療安全管理部)	医療事故報告の記録については統計処理が行えるよう、データ化して保管している
	に一 掲条 況	医事課 (医療安全管理部)	
	の十 体一 況	医事課	
	制第 況	医事課	
	の確 項保 況	医事課	
	各の 号状 況		
	及び 況		
	況及び 況		
	況及び 況		
	況及び 況		

	第九 条の 二十 第一 項	全管理を行う者の配置 状況	医事課	
		専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	医事課	
		医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	医事課	
		当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	医事課 (医療安全管理部)	

		保 管 場 所		管 理 方 法
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	規 則 第 一 条 の 十 一 第 一 項 各 号 及 び 第 九 条 の 二 十 三 第 一 項 第 一 号 に 掲 げ る 体 制 の 確 保 の 状 況	院内感染のための指 針の策定状況	医事課	保守点検に関する書類は装置ごと、 他は年度ごとにファイルしている。 また、院内の各端末からアクセスでき る医療機器安全管理システムを用い て各情報の登録・閲覧・周知の院内統 一管理を可能としている。
		院内感染対策のため の委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内 感染対策のための研修 の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の 報告その他の院内感染 対策の推進を目的とし た改善のための方策の 実施状況	医事課 (感染制御部)	
		医薬品の使用に係る 安全な管理のための責 任者の配置状況	医事課	
		従業者に対する医薬 品の安全使用のための 研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用の ための業務に関する手 順書の作成及び当該手 順書に基づく業務の実 施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用の ために必要となる情報 の収集その他の医薬品 の安全使用を目的とし た改善のための方策の 実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用 のための責任者の配置 状況	医事課	
		従業者に対する医療 機器の安全使用のため の研修の実施状況	医療機器安全管理 専門委員会	
		医療機器の保守点検 に関する計画の策定及 び保守点検の実施状況	医療機器安全管理 専門委員会	
		医療機器の安全使用 のために必要となる情 報の収集その他の医療 機器の安全使用を目的 とした改善のための方 策の実施状況	医療機器安全管理 専門委員会	

--	--	--	--	--

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	医学・病院事務部長 小野 潔	
閲覧担当者氏名	総務課長 三浦 進治	
閲覧の求めに応じる場所	第2会議室	
閲覧の手続の概要		
・ 閲覧を希望する者は、総務課に申込みを行う。 ・ 閲覧担当者は、閲覧を希望する者を閲覧場所の第2会議室に案内し、閲覧いただく。		

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☒ 有・無
・ 指針の主な内容： ①医療安全管理に関する基本的考え方 ②医療安全管理に係る体制確保のための組織等 ③医療安全管理に係る職員の教育・研修 ④医療事故発生時の対応 ⑤医療事故等の報告及び改善策の立案 ⑥当該指針の閲覧 ⑦患者相談に関する基本方針 ⑧その他（医療安全管理マニュアル及び改善策の見直し、医療安全対策の推進を図る機関への報告等）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 5 回
・ 活動の主な内容： ①医療安全指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直しに関する事 ②医療事故の判定に関する事 ③医療安全管理に関する改善策に関する事 ④医療安全管理のための職員研修に関する事 ⑤医事紛争に関する事 ⑥その他医療安全管理上の重要事項に関する事	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 回
・ 研修の主な内容： ① 第 1 回 ME 機器講習会 ② 第 1 回薬剤セミナー ③ 第 2 回 ME 機器講習会 ④ 暴言・暴力の対応案 ⑤ 平成 2 5 年度インシデント報告・総括	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（ ☒ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 事故（インシデント）報告については、調査・分析を行い、改善策の立案を行っている。全体で共有すべき事例や新たに策定した安全対策については、毎月開催される病院運営委員会及びリスクマネージャー連絡会で周知し、全体に対しては、リスクマネージャーを通して周知を図っている。 2. 定期的に院内ラウンドを実施し、安全情報等の周知状況や安全確認手順の実施検証及び指導・助言を行っている。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	☒ 有（ 2 名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ 有（ 5 名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	☒ 有・無
・ 所属職員： 専任（ 2 ）名 兼任（ 1 8 ）名 ・ 活動の主な内容： 1. メディカル・リスクマネジメント委員会（以下「委員会」という）が有効に機能するよう具体的な提案事項等の作成及びその他委員会の庶務に関する事 2. インシデント報告を分析し、その結果を委員会へ報告すること及び現場へのフィードバックに関する事 3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと 4. 事故等について、患者や家族への説明などその発生時の対応状況の確認を行うとともに必要な指導を行うこと 5. 事故等について、その原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。 6. 医療内容についての相談等に関する事 7. 医療安全に係る連絡調整に関する事 8. 医療安全管理に関する職員研修の企画及び運営に関する事 9. 医療安全の推進に関する事	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	☒ 有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☒ ・無
・ 指針の主な内容： ① 院内感染に対する基本的考え方 ② 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項 ③ 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 ④ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ⑤ 院内感染発生時の対応に関する基本方針 ⑥ 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ⑦ その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： ① 感染予防対策の確立 ② 感染予防の実施、監視及び指導 ③ 感染源の調査 ④ 感染予防対策に関する情報の収集 ⑤ その他感染予防に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容： ① アウトブレイクから学ぶ感染対策 ② チームで行う抗菌薬ラウンド～抗菌薬適正使用推進を目指して～ ③ 褥瘡感染とその対策 ④ 持ち込まない・広げないノロウイルスとインフルエンザ	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☒ ・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 院内の菌検出状況や感染症患者の状況を電子カルテシステム内の感染制御システムで管理している。主要な感染菌の検出状況や感染者情報については毎月報告を行っている。 抗菌薬の使用状況やTDM実施状況についても定期的に報告を行っており、注意を要する抗菌薬については届出制とし、感染制御部の介入を実施している。 感染制御部及びリンクナースによる院内ラウンドを定期的に行い、標準予防策や感染対策の実施状況の確認、指導を行っている。また、各種感染症サーベイランスも行っており、定期的に報告を行っている。 マニュアル変更や院内感染対策の重要情報については、病院運営委員会及び病院連絡会を通じて周知を図るとともに、感染制御部ニュースを発行し各部署へメール配信している。	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☒ ・無 年 7 回
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	(ビデオセミナーを含む)
・ 研修の主な内容（テーマ）： ○薬剤の取り扱いについて ○薬の基礎知識 ○注射薬剤の基礎知識 ○医薬品の適正使用～インシデント事例から～（ビデオセミナーあり） ○チームで行う抗菌薬ラウンド～抗菌薬適正使用推進を目指して～（ビデオセミナーあり）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (☒・無) ・ 業務の主な内容：平成 26 年 8 月に全病棟・部門を対象に実施し，確認内容を保管記録している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： - 得られた情報のうち必要なものについては医薬品を取り扱う職員に対して周知する。 - D I ニュース（月 1 回発行），薬剤部便り（月 1 回発行），その他必要に応じて通知文書として配布	

様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 8 回
・ 研修の主な内容： 研修医オリエンテーション，看護部新採用者 ME 研修，ME 機器講習会にて，全部署にて使用する医療機器（人工呼吸器・除細動器・輸液ポンプ等）の講習会を実施 部署ごとに関連する医療機器の講習会（人工呼吸器，透析装置，IABP・PCPS，除細動器，人工心肺，補助人工心臓，保育器，輸液ポンプ・シリンジポンプ）の実施 各種医療機器（超音波診断装置・ベッドサイドモニタ）導入時研修の実施	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 （ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置，補助循環装置，人工呼吸器，除細動器，AED，血液浄化装置，保育器，輸液ポンプ等の点検スケジュールの策定，実施は臨床工学技士が行っている。 また，放射線機器については，放射線技師が実施している。 （始業・終業点検，安全・動作確認等日常点検，出力測定，漏洩線量測定など）	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ ☒ 有 ・ 無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器安全管理システムを用いた添付文書及び安全情報の管理，PMDAメディナビによる情報収集，MDIC取得（臨床工学技士2名），ME機器講習会での周知，臨床工学技士の各種研修会・講習会への参加や報告	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・ ☒ 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・病院ホームページによる情報発信のほか、県内医療機関向けに病院紹介の冊子を作成して配布し、また県内関連病院長連絡会議を年に1回開催し情報提供を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・チーム医療を実践しており、外来化学療法チーム、緩和ケア支援チーム、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム等を組織し、複数診療科の医師および多職種のスタッフが連携して対応している。	